

準備組織に當つたのである。かくて入幡、門司、大牟田、福岡、小倉、戸畑、の各市田川、嘉穂、浮羽の各郡に夫々支部を設け同七年七月十五日國社黨福岡縣支部聯合が結成されたのである。

而して之を支持するは多く市民並に小作農民層にして労働組合に有力なるものなく、其の黨員約三千と稱せらるゝも實勢力に至りては昭和八年施行の市町村會議員選挙の成績に俟たねは容易に想像し難いところである。

b、社民、勞大の合同問題

中央に於ける社民、勞大兩黨の合同に伴ひ兩黨縣聯に對する本部よりの齟齬ありたるも、社民縣聯は地方の特殊事情を主張して之に應せず單獨社大黨縣聯支部に改組したのであるが、之に對して勞大縣聯では、合同を以つて階級的墮落なりとし中央に於ける社大黨結成大會に代表者を出席せ

しめなかつたが、其後黨勢擴大の爲表面的合同賛成を可決し、舊社民縣聯に交渉したるも舊社民縣聯は之に應せず、其の成り行はかなり注目せられてゐたのであるが、本年一月に至り遂に社大縣聯の看板を掲ぐるに至つたので、本縣に於ては二つの社大縣聯が對立配合を演ずる状態になつたのである。

0、昭和七年二月の衆議院議員選挙

右縣選挙に於ける社民黨並に勞大黨兩縣聯の得票数は左の通りである。

社民黨

得票数 三七、四〇四票

龜井真一郎 (第二區)

二三、〇二五票 (菅選)

小池四郎 (第四區)

一四、三七九票 (菅選)

勞大黨

一四、一六四票

淺原健三 (第二區)

一一、五四七票 (菅選)